

# コミュニティケア とケアワーク

毛利和江（ケアワーカーズステーション帆柱）



「ひとりぼっちの高齢者をつくらない、ねたきりにならない・させない」を合言葉に、九州で始めて非営利協同の福祉事業所「ケアワーカーズステーション帆柱」を八幡東区に平成10年10月開所いたしました。仕事の段取りから、資金づくり、事業所の経営までまったく経験のない女性（元看護婦・保母など）が集まって始めたので初めは大変でした。介護保険が平成12年に始まり、居宅支援・訪問看護・訪問介護の三事業の認可を受けました。今年で4年目になりますが、いまでは安心して任せられる事業所、そして楽しく働ける事業所として多くの方々の信頼を得ています。

### はじめに

八幡東区は八幡製鉄所があり労働者の町・賑わいのある町でしたが、第一世代は高齢化し、第二・第三世代は東京をはじめ全国に移住し、北九州市のなかで一番高齢化がすすみ、4人に1人が65歳以上の町です（政令市でもっとも高齢化率が高い北九州市19.6%、八幡東区は25.7%）。1人暮らしの老人も多く、在宅サービスを希望する人は1人暮らしか、家族と同居していても昼間は1人暮らしが殆どです。独居老人が、在宅サービ

スを受けながら生活している現状を報告いたします。

### 事例

○田○子さん：この方は今年10月で90歳になられました。病名：高血圧症・狭心症・脳梗塞後遺症・左眼緑内障。

3年前のH12年12月より訪問介護を開始しています。この方は独身で妹さんと2人で暮らしておられました。1ヶ月前に実妹死去、また弟嫁の死去と不幸が重なって、不安定な精神状態になり、一時的にうつ状態となりましたが、毎日3H訪問介護、開業医の往診、訪問看護、デイサービスを週1回実施することで、近所づきあいの中で元気を回復し、今年2月施設入所の通知があったが断って、このまま在宅で過ごす決意をされました。今年の7月に乳がんになられて手術をしましたが、身寄りがないということで「帆柱」で入院の準備から手術後のケアまで全部引き受けました。今は在宅で元気になっておられます。

### 事例

○上○子さん（87歳）：家族構成：娘、甥との3人暮らし。病名：変形性両膝関節症・糖尿病・気管支炎・気管支喘息。

同居の娘さんは朝7時頃から夕方7時頃までの仕事。買い物などはしてくれています。昼間は1人で過ごしているが変形性両膝関節症のため、歩行困難で室内は這って移動。排泄はオムツをしているがトイレまでは這って行き自立できている。家の外に階段が15段くらいあるが昇降を介助で、週2回のデイサービスに通っていた。

H14年1月、急に膝関節の痛みが強くなり全く動けなくなる。かかりつけ医と相談し、病院に入院させるも家には帰りたいと10日位で自己退院する。入院中に風邪をひいたようで退院後、気管支喘息、呼吸困難となる。歩行も全く出来ないため、かかりつけ医の往診、訪問介護午前2H、訪問看護などを開始しながら在宅を支える。現在は、入浴も介助できるようになり、室内で歩行練習をしながらデイサービス通所を目標に頑張っている。

#### 事例

○野○子さん(78歳):一人暮らしで、生活費は年金があり自分で管理している。子供は2人で東京在住。何かあれば長男が駆けつけ年に4回位長男夫婦が泊り込みで世話をしに来ている。病名:慢性関節リュウマチ・骨粗鬆症・貧血

四肢関節などの変形があり歩行困難、体動困難などがある。買物や病院行きなどは介助を要しヘルパーが同行している。食事づくりも行い食べてはいるが、偏食がひどく強度の貧血となり、夕方寝室に行く途中廊下で目まいがして倒れ自分で起きられず、翌朝ヘルパーが訪問して発見し2人がかり介助して起こす、ということもありました。

また、ある寒い日にベットから落ちて仰臥位になったまま動けず、早朝訪問した近所の人に発見され、こごえる寸前で助けられました。

本人は希望しなかったが東京の長男と相談のうえ、緊急通報システムのペンダントを着用させました。今では、これで安心して眠れまじと喜んでおられます。障害があり一人暮らしは無理なので、東京の長男が同居を何回も進められていますが、頑固に拒否して訪問介護サービスを受けながら生活しています。

#### 終わりに

高齢になっても障害があっても、住みなれた家で暮らしたいと誰もが願っています。けれども家族事情や住宅事情その他の事情で、やむなく病院で生活しなければならない人が増加しています。

日本は世界一の長寿国となり、高齢化が介護を必要とする状態になっても、自立した生活を送り人生の最後まで人間としての尊厳を全うできるような社会の仕組みが必要です。

介護を家族に依存するのではなく社会全体で支えるとして介護保険制度が発足して2年が経過しましたが、介護サービスの整備も不十分で施設入所の2年、3年待ちが続いていますし、24時間在宅でのサービスは現状では困難です。また、介護保険の内容や介護の知識も市民の間には理解が不十分で、介護を社会的に支えるにはまだまだ課題が山積しています。

福岡県高齢者福祉生活協同組合は、「元気な高齢者がもっと元気に、寝たきりにならない、させない」を合言葉に、働きたい人には仕事を、介護が必要な人にはみんなで支えて安心して住める地域社会をめざして活動しています。いまでは福岡県下14ヶ所、うち北九州には4ヶ所ができ、介護・看護やサービスなどの活動をしています。

これからの高齢社会では、人間の尊厳を全うできる地域社会をめざして、あらゆる力を結集することではないかと考えます。